

NOTIA訪問セラピー対象児の 発達指数の変化(2008-2021)

2021.11

つみきの会・NOTIA

つみきの会・NOTIAのABA訪問療育

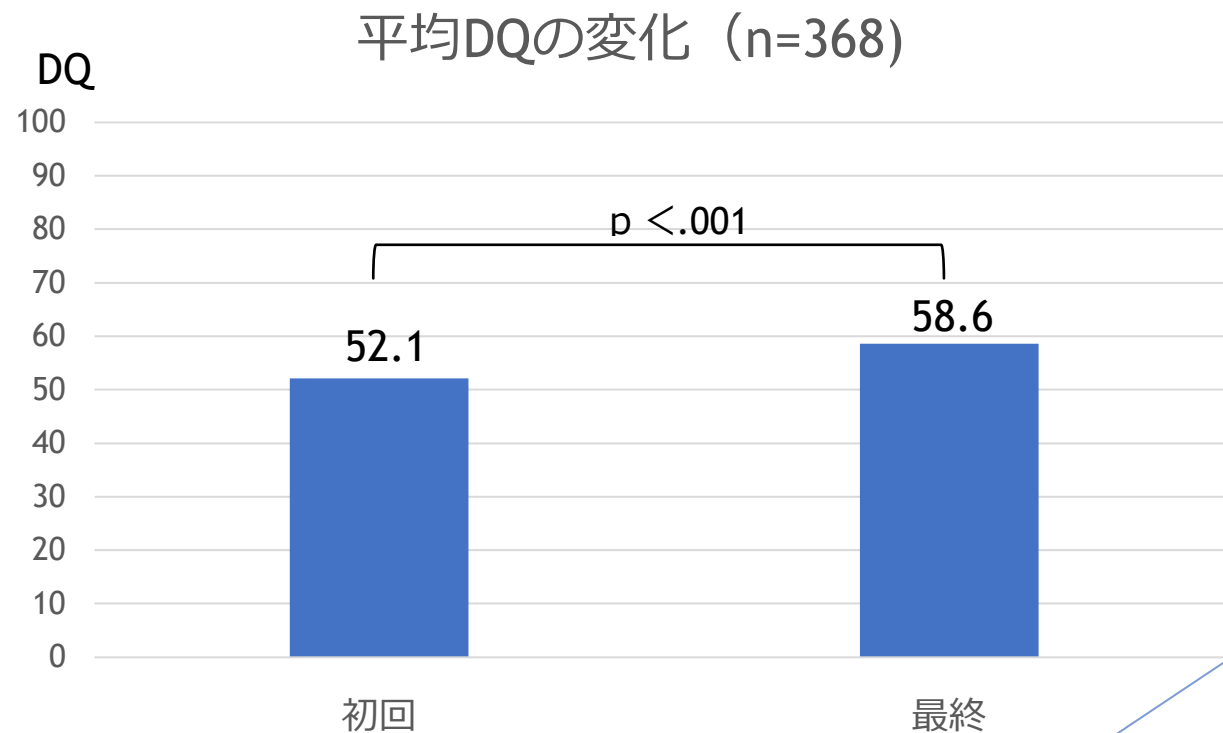
- ▶ つみきの会は、ABA家庭療育に取り組む自閉症幼児の親と療育関係者の会として、2000年に発足しました。現在、全国に正会員が約1200名います。
- ▶ つみきの会では、家庭療育に取り組む親御さんを支援するため、2008年から、独自に養成したABAセラピストを会員家庭に派遣して、訪問型のABAセラピーを行なう事業「NOTIA」を行なっています。訪問対象は基本的に就学前の会員のお子さんに限られます。NOTIAは2011年に株式会社になりましたが、引き続き、つみきの会の会員限定で訪問療育を行なっています。
- ▶ セラピー訪問は、1回2時間、週1～2回が原則です。
- ▶ 2021年10月現在、全国にセラピストが35名いて、115のご家庭に訪問ないしオンラインでのご指導をしています（オンラインのみは6件）。
- ▶ 現在の訪問対象児（115名）の平均年齢は5才0か月（1才7か月～15才0か月）。診断名の内訳は、自閉スペクトラム症60%、精神遅滞19%、その他・不明21%です。

今回の調査

- ▶ NOTIAでは、2008年以降、すべての訪問対象児に対して、訪問開始時と、その後、1年ごとに、KIDS（乳幼児発達スケール）という、親御さんの自己記入式による発達検査を実施しています。年の途中で訪問を終了した場合は、最後の検査から半年以上経っている場合に限り、訪問終了時にもう一度KIDSを行なっています。
- ▶ 今回、2008年～2021年までの全訪問対象児の中から、2年以上訪問を継続し、KIDSの初回検査データと2年後（三回目）以降の最終検査データがそろっている368名を対象に、初回と最終検査のDQ（発達指数）の変化を分析しました。

結果 1 : 全体のDQ平均値の変化

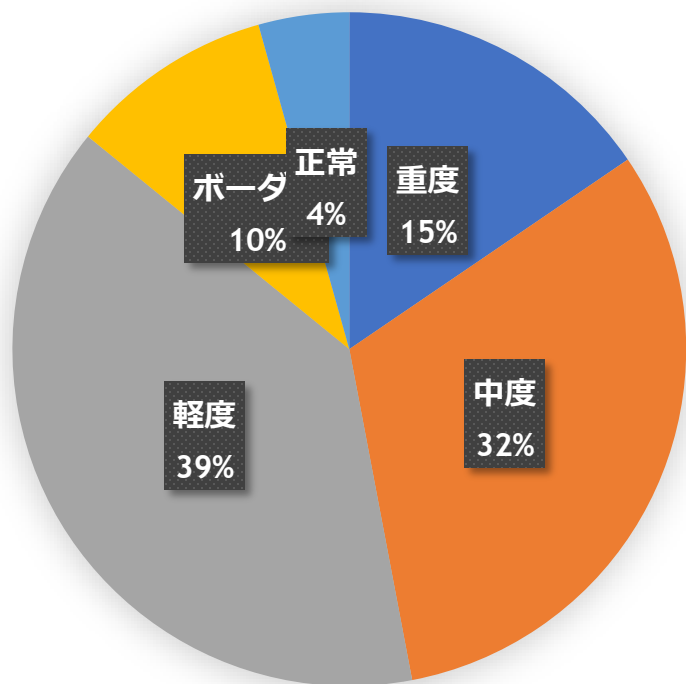
- ▶ まず368名全員の初回と最終回のDQの平均値を比較すると、
初回平均DQ52.1→最終検査58.6となり、6.5ポイント上昇していました。これは0.1%水準で統計上有意な改善です。



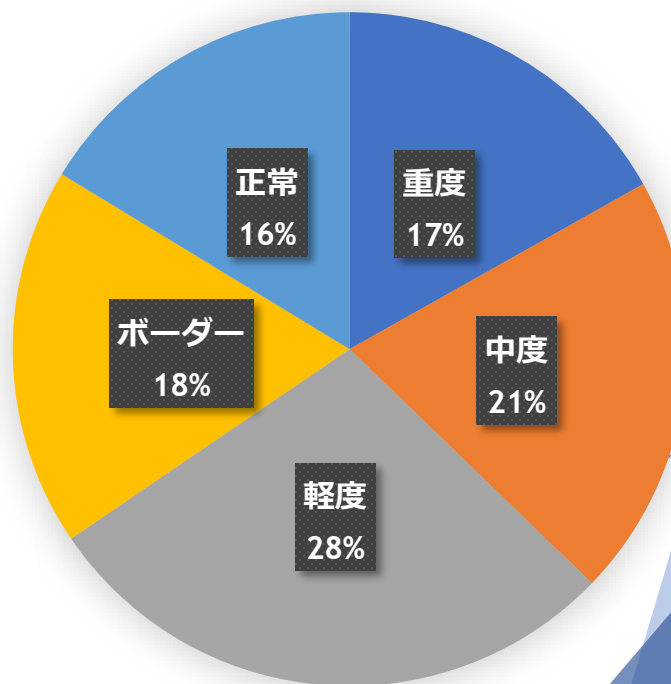
DQ区分別構成比の変化（全体 n=368）

- 次にDQ値から、対象児を重度、中度、軽度、ボーダー（境界知能）、正常の5段階に分けて、初回と最終検査での構成比を比較してみました。その結果、初回に比べて、最終検査では、正常+ボーダー（DQ70以上）のお子さんが14%→34%に増えていることが分かりました。

初回



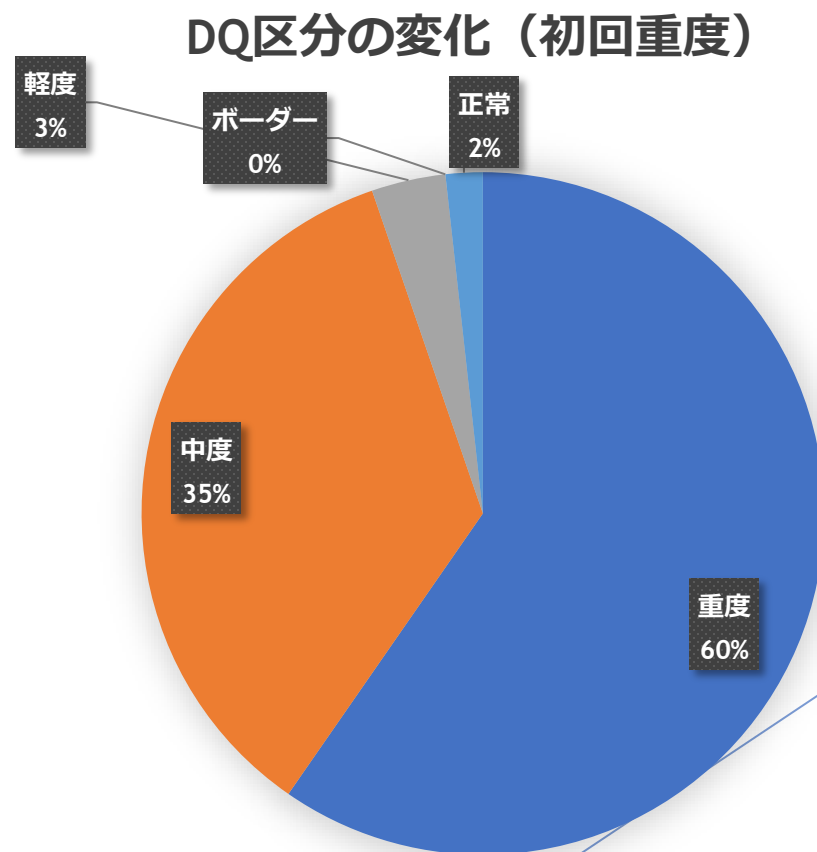
最終



重度	～34
中度	35～49
軽度	50～69
ボーダー	70～84
正常	85～

初回重度児のDQ変化 (n=57)

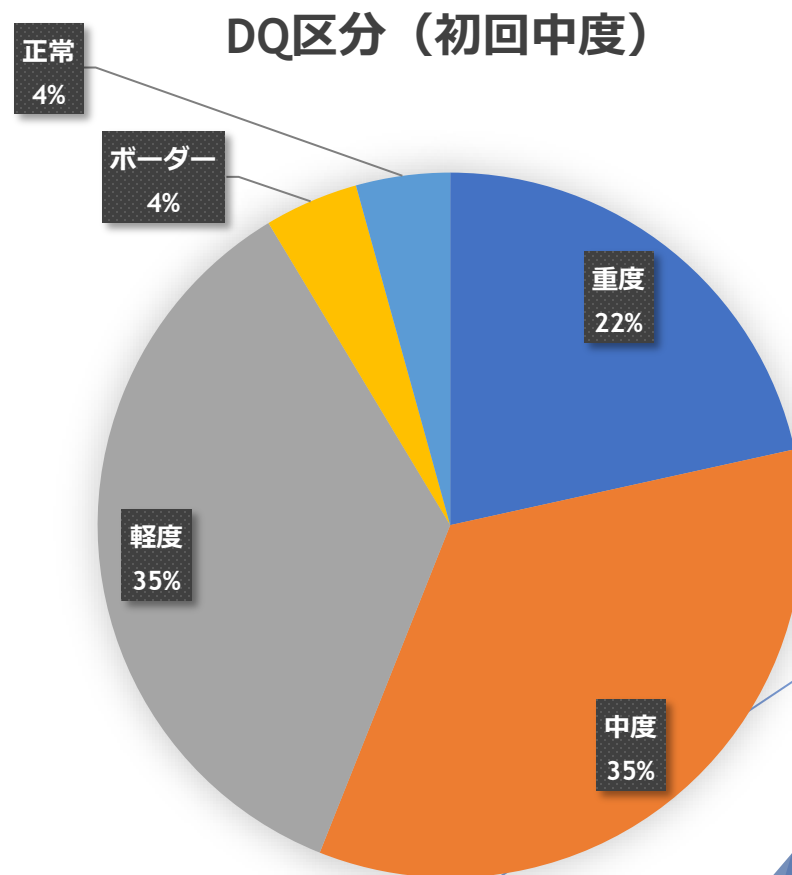
- ▶ 次に初回検査で発達レベルが重度 (0~34) だった子どもたち57名の、最終検査でのDQ区分を見てみると、中度~正常まで、合わせて40%が何らかの改善を示していることがわかりました。
- ▶ 平均DQは初回27→最終32に5ポイント上昇しました (p<.01)。



重度	~34
中度	35~49
軽度	50~69
ボーダー	70~84
正常	85~

初回中度児のDQ変化 (n=116)

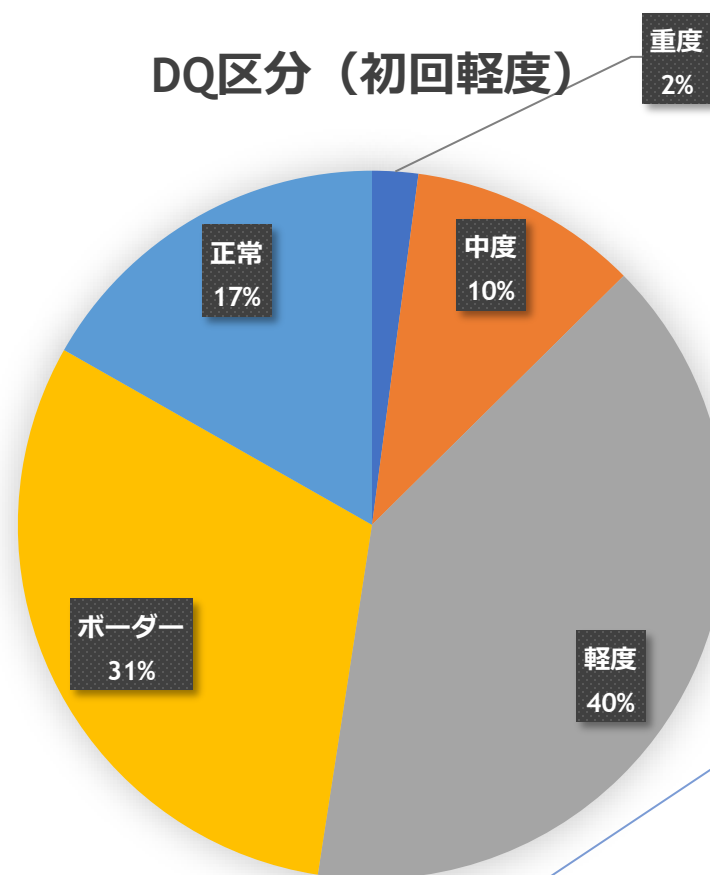
- ▶ 初回検査で発達レベルが中度（35～49）だった子どもたち116名について、最終検査でのDQ区分を見ると、重度に推移した子どもが22%いる一方で、43%が軽度～正常に推移していました。
- ▶ 平均DQは初回42→最終48と6ポイント増加しました（ $p < .001$ ）。



重度	～34
中度	35～49
軽度	50～69
ボーダー	70～84
正常	85～

初回軽度児のDQ変化 (n=143)

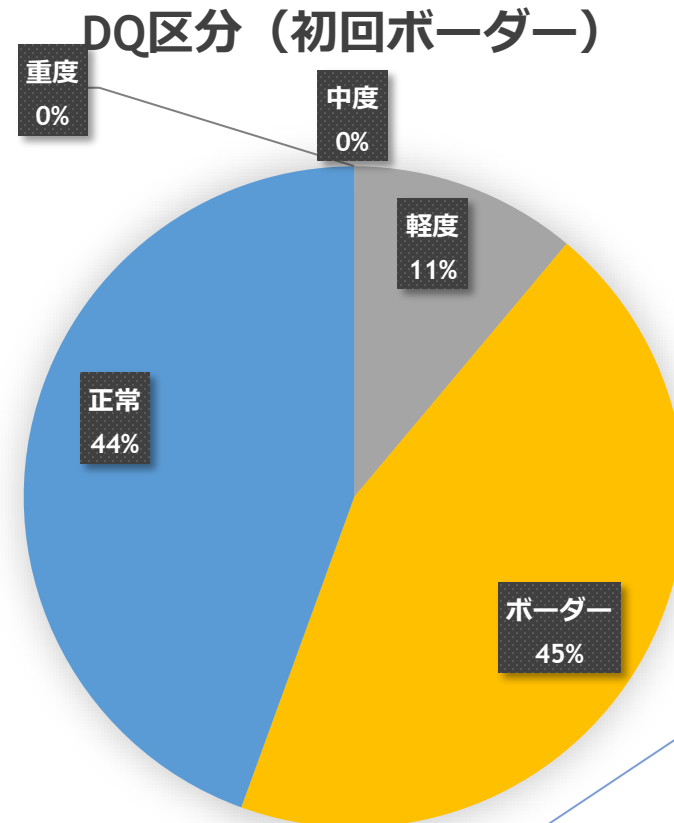
- ▶ 初回軽度 (50~69) だった子どもたち143名の最終検査でのDQ区分を見ると、正常+ボーダー合わせて48%が何らかの改善を示していました。
- ▶ 平均DQは初回59→最終67と8ポイント上昇していました (p<.001)。



重度	~34
中度	35~49
軽度	50~69
ボーダー	70~84
正常	85~

初回ボーダー児のDQ変化 (n=36)

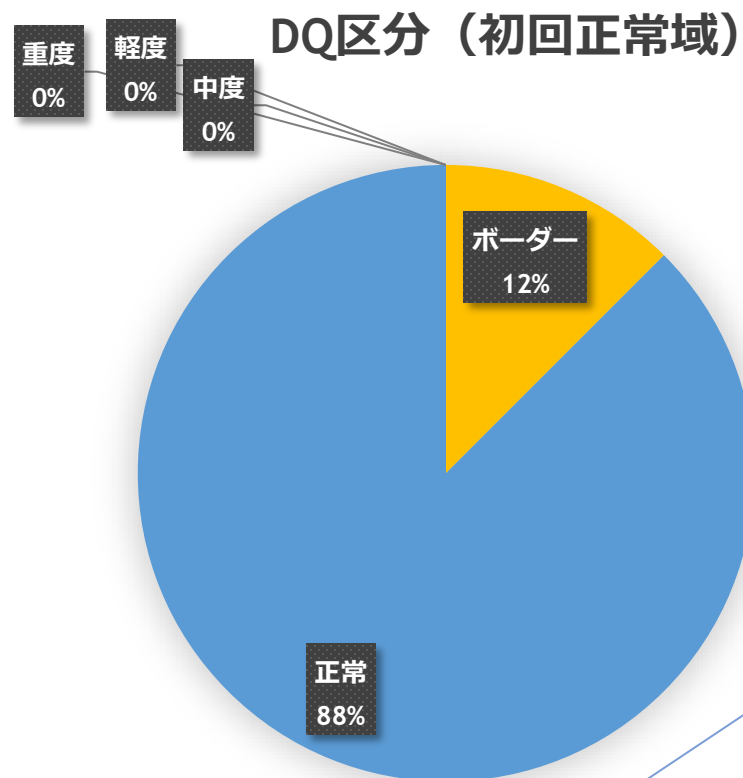
- ▶ 初回ボーダーライン (70~84) だった子どもたち36名の最終検査でのDQ区分を見ると、44%が正常域に移行していました。
- ▶ 平均DQは初回76→最終82に6ポイント上昇しました (p<.01) 。



重度	~34
中度	35~49
軽度	50~69
ボーダー	70~84
正常	85~

初回正常児のDQ変化 (n=16)

- ▶ 初回正常域（85以上）だった子どもたち16人の最終検査でのDQ区分を見ると、12%がボーダーへと移行していましたが、おおむね、現状を維持していました。
- ▶ 平均DQは初回95→最終94と
ほぼ変化はありませんでした（ns）



重度	～34
中度	35～49
軽度	50～69
ボーダー	70～84
正常	85～

まとめ

- ▶ つみきの会の親御さんの多くは、地域の療育機関などに通いながら、自宅で自力でABA家庭療育に取り組んでおられます。
- ▶ NOTIAのセラピストの数は少なく、費用もかかるため、セラピストの定期訪問を受けているご家庭は会員の1割程度にすぎません。
- ▶ しかし訪問を受けていないご家庭については、DQ検査を行っていないので、やむをえず、今回は検査データがそろっているNOTIA訪問対象児だけを調査対象にしました。
- ▶ 結果は、全体で初回平均DQ52.1→最終検査58.6で6ポイント以上の上昇となり、統計上明らかな改善を示しました。
- ▶ またDQ区分別に見ても、ほとんどの区分で初回検査よりも最終検査の方が改善を示していました。
- ▶ これはセラピストだけの力ではなく、毎日療育に取り組んでいる親御さんの力が大きいと考えています。この結果が、現在、あるいはこれからABA家庭療育に取り組もうとされている親御さんにとって、励みになっていただけることを期待しています。